

第8講 生協で取り組む地域共生社会づくり  
～地域の未来を変えるヒントとアクション～

日時：2019年2月20日(水) 会場：東京都生協連  
参加人数25名 (パルシステム東京、東都生協、  
東京ふれあい医療生協、八王子保健生協)

2017年に保健・医療・福祉の分野で新たに「地域共生社会」という概念が厚生労働省より提示されました。互助の組織である生協の理念と地域共生社会の考え方の大部分は共通しています。地域共生社会づくりに関わっていく中で、相利共生の関係(「つながりづくり」の社会化)や、考え方の転換(「やらされる福祉」から「やる福祉」)が大切であることを学びました。また、地域共生社会づくりに欠かせない担い手との関係構築について学びました。

《演習》  
関心を持ちあう関係構築

関係とは、価値観を共有することに根差している。その価値観はお互いの人生における経験を通して得られた思いやストーリーを知ることによって得られる。



地域共生社会づくりでは住民が「担い手」となって活動やサービスを推進していくことを中心的に位置付けています。しかし「担い手」を利用する対象として見てしまうと信頼関係が築きにくくなります。誘いたい相手が何に興味を持っているのか、人生における経験を通して得られた相手の思いを知ること、関心と資源を交換することで強い関係を作っていくことから始めます。



「誘う役」「誘われる役」になり、「生活支援サービスの立ち上げ」に取り組むための有志メンバーを集める演習を行いました。



価値観・関心・資源を書き出し共有。



室田先生より講評を頂きました。